



東京大学大学院工学系研究科教授

清水英範

沖縄総合事務局のホームページから、「基地がなかった頃・昭和の初めごろ、宜野湾への旅」と題するビデオを見ることが出来ます。普天間基地ができる前の宜野湾の地形、風景をコンピュータ・グラフィクス（CG）などの技術を使って再現しています。宜野湾の原地形、原景観はどうであったのか、その中で、人々はどうのような暮らしを営んでいたのか、美しい映像と平良とみさんの情緒豊かな語り口で紹介されていきます。

この映像は、沖縄総合事務局が平成十三年度に設置した「昔・普天間まちなみ再現検討委員会」の成果に基づいています。私は、委員長の仕事にあった関係で多少憚られるのですが、委員の皆様ほか、多くの人々の献身的な努力によって成し遂げられた、この委員会の仕事のもつ意義の大きさを多くの方々を知っていただきたく、筆をとらせていただきます。

きました。

委員会では、ホームページに紹介される映像の他にも、宜野湾を中心とした地域の地形、自然、都市化の変遷を調査し、これを地理情報システム（GIS）を用いてデータベース化していく作業を担いました。個々の仕事に言及する余裕はありませんが、一つだけ紹介させていただきます。

それは、米軍が占領前に偵察目的に撮影した空中写真を利用して、当時の地形図を作成するという困難

今・昔の普天間

〜新しいまちづくりを

目指して〜

しいまちづくりを目指して」です。この題目に、委員会の最終的な目標、そして、私たち委員会に携わった多くの者の願いが端的に表されています。

普天間基地の地権者の方々は非常に多く、年月を経て既に世代が代わられている世帯も多くあります。返還後の普天間のまちづくりにも、様々な方が関係されるでしょう。地権者の方々とはもとより、市民、県民、県や国の行政機関、政治家、デベロッパー、学識経験者など、多くの方々



が新しいまちづくりに参画されるのだと思います。この方々は、世代も違えば、出身地や生活環境も異なります。経験や知識、そして各自の価値観も多様なことでしょう。

これら多くの方々、普天間の歴史を共有し、相互に信頼関係をもつて未来を語り合うことは容易なことではありません。私たちの問題意識はこの点にあります。多くの人が普天間の歴史を知り、それを共有するための助けとなるような情報システムをつくれないうか。そして、

多くの人が夢をもつて普天間の未来を語り合い、協働のまちづくりを進めていくための契機となれないか。これが私たちの願いであったのです。

「共有される歴史」の解釈や未来への展望は各自の価値観によって異なってきました。それは当然のことです。重要なことは、各自が確固とした歴史観を養い、未来に対する確かな意見を持つことです。時勢に流されず、長期的な視野にたった責任ある議論を重ねることです。後世に対して、子孫に対して説明責任を負うということは、結局のところ、こつこつことではないかと思うのです。

私は、家族愛も郷土愛も、そして真の愛国心も、すべて、歴史を共有できるからこそ、成り立つのだと思っています。そして、戦後の都市計画に見られる多くの失敗は、各地域の固有の歴史や文化、特に、地域のもつ原地形、原風景的な個性に十分な配慮が無かったことに起因すると思うのです。

普天間の新しいまちづくりが、わが国の都市計画を大きく進展させる契機となることを切に願います。普天間であるが故に、沖縄であるが故に、わが国の計画哲学と方法論の成熟度が広く世界に試されることにもなるのです。